

# 幼児の心にかへりて

戸 倉 ハ ル

所謂唱歌遊戯の動作は、年々共に複雑化し來り、又その動作には大人の主観がは入り過ぎ、随つて子供は大人の主観を眞似る様強ひられる結果になる。近來、この傾向が著しくなつて停止する所を知らざるの状態にまでなりつゝあつた。自分も亦、不知不識の裡にこの弊に陥りつゝあつた。

六月のある日の事であつた。幼稚園の倉橋先生その他の諸先生も、私共この座談會が開かれた。その席上、倉橋先生の「遊戯はもつこ粗朴で簡單で、一刀彫の様であり度い。もつこ子供の自由表現の餘地をあらしめ度い。」

こ云ふお言葉が強く、私の胸を打つた。私はこのお言葉に躍動した。先生のこのお言葉は、實にあの粗朴な子供心そのものを表現する様に、指示せられたものとして、私の胸に喰ひ入つた。爾來想を構へ考を練るこ幾度か、その間、無心に遊び戯るゝ子供等の、その表現に見入つた事も幾度か數へ切れぬ程であつた。かくして漸く今回の講習に間に合つた有様である。併し幾度の觀察も、思考も、實際家のそれに及ばない事はよく知つてゐる。お心付きの事、實際に子供等にせられての不適當の點等、忌憚なき大方の批判を切に乞ふ次第である。

最後に一つ申上げ度い事がある。それは、今回の講習に於てのみでなく、私は、遊戯の動作なるものは、誰が考へ出すよりも、誰が作り出すよりも、子供等の自由表現に待つべきものであると思ふ。私が皆様の前に踊つたもの、遊んだものは、その踊り方、遊び方のほんの一、二例として御參考までに御披露したに過ぎない。皆様も子供達の前に示される時、絶対のものとして強ひられる様の事があつてはならないと思ふ。子供等に教へるこ云ふ事よりも、子供等にらくらくこ自由表現させる志向を起させるのこそよき指導者、よき保母であると思ふ。子供等の前に踊るのも遊ぶのも、つまりは子供等とその志向を湧出させ様爲の、ほんの手引きとして示されるに過ぎない、この心を、常に忘れてはならないと思ふ。